

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年3月10日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.97】

松崎氏は善意ですべてやっているのに組織が疑うことはない?!

前号に引き続き、国際交流基金に3800万円を入金した経過についての松崎氏の説明を詳しく検証したい。引き続き、「週刊現代裁判」(2009年1月26日)での証言内容を紹介する。

(被告代理人)でも、(注:3800万円を)国際交流のために使おうと思っていたんですか。(松崎)私は、国際交流基金を善意で作りましたから、必要なところにいろいろ支出をするということをしていましたから、私のお金をどこの口座に入れようと、どう使おうと、必要があればそれは組織と相談して、国際交流委員会のメンバーと相談してやるということですから、特別に気にしておりません。(代理人)3800万円を国際交流基金の口座に入金するに当たって、事前に国際交流委員会の人たちに通知あるいは了承等を求めたんですか。(松崎)しておりません。(代理人)国際交流委員会の方だって、あなた名義で何も知らない3800万円のお金が突然入金になっていたらびっくりするんじゃないですか。(松崎)そんなことはないと思います。(代理人)しょっちゅうあったんですか。(松崎)そんなことはありません。私は善意ですべてやっていますから、私を疑うなんていう、そんなことはないですよ。(代理人)別に疑うんじゃなくて、3800万円の入金があれば、これは寄附なんですかとか、これはどういう性質のお金ですかと聞くのが普通じゃないですか。(松崎)いや、それは別に聞かれておりません。

松崎氏は「善意」を強調しているが、知らないうちに3800万円もの個人の大金が組織の口座に勝手に入金されることなど、常識では考えられない。しかも、自分のものとも考えられない資金で、私的なハワイのリゾートマンションを購入したのだから、「善意ですべてやっています」との説明は誰も信用しないだろう。「私を疑うなんていうことはない」との証言は、反対に、松崎氏の私物化を証明しているといえよう。

ハワイのコンドミニアムは沖縄に代わる内ゲバ被害者の保養所だった!?

次に、ハワイ・コナのコンドミニアムを購入した経緯についての松崎氏の証言を紹介し、組織私物化の実態を検証していきたい。以下に、「週刊現代裁判」の証言内容を続ける。

(被告代理人)コナを買おうと思ったのはいつなんですか。(松崎)買った直前でしょね。(代理人)誰が見つけたんですか。(松崎)私ですね。(代理人)実際にハワイに行かれたわけですか。(松崎)そうですね。Wさんという女性不動産屋からいろいろあっせんを受けて、それで購入したことははっきりしてますね。(代理人)このコナのコンドミニアムはどのような目的で購入したんですか。(松崎)私は、取りあえずはOBになっている人たちや、それからいわゆる内ゲバと称するもので数多くの皆さんが障害等を受けておりましたから、そういう人たちなどにも使ってもらいたいなということで話を、これは全国の委員長の皆さんと話を、皆さんもそのことは承知しております。(代理人)お金として出したのはあなたのお金なんですか。(松崎)そうです。

「No.86」に記載の通り、松崎氏は沖縄・今帰仁村の別荘購入の理由を「新左翼系に殺すと言われ、身の休まる場所を確保するため」と説明している。ハワイ・コナのコンドミニアムも、内ゲバで障害を負った犠牲者の保養施設として購入したという。沖縄の別荘を知られて危険を感じたので、内ゲバ被害者の保養所を、安全なハワイに移した、ということなのか。それを各委員長にも話をして了解を得たそうだが、この件をみても、JR総連への革マル派浸透の疑惑がくっきりと浮かび上がってくる。